

外島裕教授定年退職記念特集の発刊にあたって

日本大学商学部長 嶋 正

外島裕教授は、日本化薬、日本能率協会マネジメントセンターでの人材開発にかかわる実務経験を経て、1997年4月に日本大学商学部経営学科教授に就任され、2020年3月に至るまで23年の長きにわたって経営心理学担当の教員として勤務されました。その間、教育、研究、及び大学運営に一方ならぬご尽力をいただき、日本大学商学部の発展に多大な貢献をなされました。ここに改めて心より深く感謝申し上げます。

外島教授は、学部運営では、就職指導担当（2006年4月～2007年4月、2016年4月～2017年3月まで）を務められたばかりでなく、学務委員会副委員長、初年次教育運営委員会委員長、教職課程運営委員会委員長、教育改善委員会委員長、情報科学研究次長等を歴任され、とりわけ商学部の教育改革・改善に心血を注がれました。

学術研究では、主要なものだけで、著書15冊（共編著、共著含む）、論文46篇（共著含む）、学会発表165件（共同発表含む）を数え、関連領域の事典・ハンドブック等への執筆も多数に上ります。また、日本心理学会研究奨励賞（1994年10月）、International Management Development Association Best Paper Award（2004年7月）、経営行動科学学会優秀研究賞（2008年11月）を受賞されるとともに、日本応用心理学会、産業・組織心理学会、経営行動科学学会、日本心理学会等の要職にあって、斯学の第一線で活躍されてきました。

外島教授の研究領域は、人材育成、能力開発、キャリア開発、リーダー育成、組織開発、組織改革等、広汎に及びますが、特筆すべきは、このような先端的研究によって得られた知見を惜しみなく商学部の教育に注ぎ込み、ビジネス社会で役に立つ人材を育成されてきたということです。主要担当科目の経営心理学ばかりでなく、「キャリアデザイン特別講座」「キャリア開発の心理学」「職業選択の心理学」等のキャリア教育関連科目を担当され、その熱の籠った講義によって、多くの学生を引き付けてこられました。

また、2000年4月より大学院商学研究科の教育も担われ、数多くの大学院生に対して、妥協を許さぬ論文指導をされてきました。毎年、修士論文の提出期限が迫る時期になると、本館3階の共同研究スペースのガラス越しに、外島教授の熱血指導の様子を垣間見ることができました。

日本大学教育憲章では、すべての学生が【自ら道をひらく】能力を研くことを求めています。その構成要素である挑戦力、コミュニケーション力、リーダーシップ・協働力、省察力の修得は、まさに外島教授の教育活動において体现されていたと今にして思います。外島教授には、日本大学商学部の教育に対するご意見番として喝を入れていただきたくお願い申し上げます。

私と外島教授の関係は、シマとシマ、嶋と島、嶋外島、シマ繋がりです。今に至っております。今後とも、よろしくごお願い申し上げます。

最後になりますが、今後、益々のご健勝を祈念し、巻頭の言葉とさせていただきます。